

2018年1月30日

2017年度 聖路加国際大学大学院 課題研究

心臓血管外科術前看護外来で急性・重症患者看護専門看護師が行う  
リスクコントロールの為にセルフケア獲得を促進する患者支援

How CCNSs Help Patients to Manage Their Risks in Preparation  
for Cardiovascular Surgery before Hospital Admission

16MN032  
山本茉莉

## 要旨

### 【目的】

本研究は、心臓血管外科手術を受ける患者を対象として急性・重症患者看護専門看護師 (CCNS) が術前看護外来で行う、リスクコントロールのためのセルフケア獲得を促す患者支援を明らかにする事を目的とした。

### 【方法】

本研究は質的記述的研究を用いた。心臓血管外科手術を受ける患者を対象とした術前看護外来を開設している CCNS を対象とし、参加観察とインタビューを実施した。フィールドノートと逐語録を作成し、文脈に留意しながら全体像を把握し、研究参加者の視点から、その経験がいかに生み出されているかの分析の視点を記述した。次に、フィールドノートと逐語録から場면을構成し、類似した場면을統合して患者支援のテーマを記述した。

### 【結果】

研究参加者は 2 名 (CCNS 歴 4・5 年、術前看護外来開設期間 3・4 年) であり、合計 3 名の患者への患者支援場面の参加観察 (患者 1 人あたり 30～60 分) と CCNS 1 人あたり 1・2 回・44～96 分のインタビューを実施した。心臓血管外科の術前看護外来で CCNS が行うリスクコントロールのためのセルフケア獲得を促す支援として、16 の場面が構成され 7 つのテーマが記述された。7 つのテーマは【①術前から退院まで患者・家族と共に歩むために、患者と CCNS のパートナーシップを築く】を基盤に、【②手術に至ってしまった患者の後悔の念を理解し、これまでの経過と行動を肯定する】、【③手術に向けての患者・家族の思いを引き出し、両者の思いを橋渡しする】、【④患者が抱えている、手術に向けての懸念事項を解決する】が前段階に実践されていた。次に【⑤患者が今後抱えうる身体症状や不安を先取りし、治療と回復の道筋を示す】を経て【⑥手術を受けてこうなりたいという目標を患者と一緒に考え共有する】支援を行い、【⑦リスクを減らすために患者自身が術前から準備できる能力を高める】支援に繋がっていた。CCNS の段階的な患者支援の実際が示された。

### 【結論】

CCNS が行う心臓血管外科の術前看護外来でのリスクコントロールのためのセルフケア獲得を促す支援は、患者と CCNS とのパートナーシップの構築が基盤となっていた。次いで、安心の提供と治療と回復過程に関する道筋を示す支援が行われ、手術を受ける患者自身の動機づけを図った上で行われる、セルフケア能力を高めるための順序性のある患者支援の実際が明らかとなった。

